

### ① 本町（国分寺村石器時代）遺跡

本町遺跡は、東の本多谷、西の殿ヶ谷戸谷に挟まれ、南東に張り出した台地の先端に位置する縄文時代の集落遺跡です。約 4500 年前の縄文時代中期を中心とした住居跡が 20 軒以上確認されています。明治 22 年(1889)に甲武鉄道(現 JR 中央線)が開通した後、明治 26 年に井上喜久治と帝国大学(現東京大学)の鳥居龍蔵によって遺跡の存在が確認されます。翌年、鳥居は同大学の犬野延太郎(雲外)と調査を行い、国分寺駅東側で府中新道路開通工事のためあらわになった切通し断面から、縄文土器や石器を発見し、「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」(『東京人類学会雑誌』)として大野のスケッチを入れて発表しました。「遺物包含層」・「遺物散列地」命名の地としても知られ、本遺跡は日本の考古学史にとって重要な遺跡と言えます。



縄文時代の竪穴住居跡

### ② 花沢東遺跡

旧石器から縄文時代の遺跡で、東側は開析谷である殿ヶ谷戸谷に面し、武蔵野台地が南側に舌状に張り出した南東部に立地しています。遺跡内には、国指定名勝の都立殿ヶ谷戸庭園が存在し、園内には数箇所の湧水源があり、殿ヶ谷戸谷への傾斜と湧水を利用した和洋折衷の回遊式林泉庭園となっています。

これまで 15 次に及ぶ発掘調査が実施され、立川ローム層Ⅲ層からⅩ層にかけて複数の文化層が確認されています。縄文時代の遺構・遺物地点は少なく、前期から中期の竪穴住居跡が数軒検出されている程度です。主な時代は旧石器時代で、第 4 次調査では、7 面の文化層が確認され、Ⅳ層からⅤ層上部の 2 つの文化層では石器集中地点と 10 か所の礫群、ナイフ形石器・角錐状石器・スクレイパーなどが出土しています。

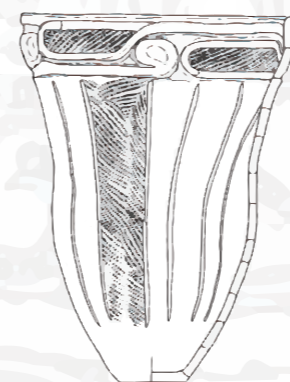


縄文時代前期の竪穴住居跡

### 史跡めぐり

小金井市教育委員会  
国分寺市教育委員会

## 縄文遺跡群ウォーク



令和 5 年 11 月 12 日(日)

集合：国分寺駅  
解散：武蔵小金井駅

【共催】  
小金井市教育委員会  
国分寺市教育委員会

### ③ 殿ヶ谷戸遺跡

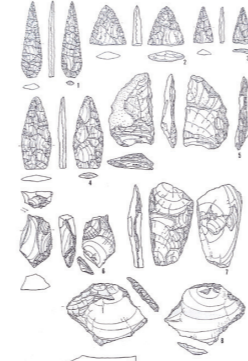
旧石器から縄文時代の集落跡で、半島状に突出する台地上に位置し、北側は本多谷と殿ヶ谷戸谷の両開析谷により画され、南側には野川が流れています。地元では「円山(丸山)」と呼ばれています。昭和 26 年(1951)に縄文文化研究で著名な吉田格らによって国分寺市域の熊ノ郷遺跡(第 2 地点)と同時に調査が実施され、立川ローム層第Ⅳ層中部から礫群 2 基が検出されています。昭和 28 年の調査では、黒曜石製の切出形のナイフ形石器、片面加工の槍先形尖頭器、長さ 11.3 センチで断面三角形、鋸歯状の連続した加工が表裏面にみられるチャート製の角錐状石器などが出土しています。縄文時代の遺物は南縁付近の表面採集等で発見されていますが、遺構はほぼ未発見です。第 15 次調査地区では、早期の田戸上層期土器片が出土しています。



出土石器実測図

### ④ 東京経済大学構内遺跡

南町一丁目にある東京経済大学構内に所在する遺跡で、これまでに 7 次にわたる調査が行われています。大学の敷地南東隅に新次郎池をはじめとする三か所以上の湧水源があり、台地を大きく開析していることから旧石器から縄文の遺跡の立地としては条件が整っていますが、調査件数が少ないため、実態はまだ明らかになっていません。個人採集による縄文時代早期に該当する土器の破片が見つかったほか、第 2 次調査では、縄文時代の集石土坑や旧石器時代の礫群が検出されています。旧石器時代の遺物は、大学図書館建設時に出土したと言われる石器(個人所有)があり、有舌尖頭器、槍先形尖頭器、打製石斧、彫刻器、スクレイパー、使用痕跡を有する剥片、剥片が出土しています。



出土石器実測図

### ⑤ 荒牧遺跡

野川南岸で国分寺崖線下の立川面にあり、殿ヶ谷戸遺跡とほぼ同じ時期の縄文時代早期の遺跡が発見されています。野川のほとりに住居跡はなく、石鏃などの石器製作の場であったと考えられます。縄文時代中期には小規模ながら集落ができれば、住居跡や土器、約 2 kg もの黒曜石の原石が出土しています。約 3 万年前頃の旧石器時代の大規模な集落遺跡であることも明らかになりました。見つかった生活痕跡は古多摩川の流路が府中方面へ移動した時期と、陸地が進んだ状況を示しています。



貫井南町大げやき公園の看板



荒牧 2 次調査出土黒曜石(原石)

### ⑥ 貫井遺跡

環状集落遺跡の 1 つです。実業家・前田武四郎の別荘造成時(大正 15 年竣工)に土器が出土し、鳥居龍蔵等の考古学者に知られることとなります。これまでに 25 地点で発掘が行われ、縄文時代中期の中頃から末頃の住居跡やお墓が数多く発見され、希少性高いヒスイ製の胸飾りや土偶なども見つっています。

遺跡のある高台から坂を下ると貫井神社が鎮座し、境内には縄文人の飲料に使われたと考えられる泉が今でも湧いています。大正期には湧き水を利用した 50m プールが神社前につくられましたが、水はとても冷たかったそうです。神社は、天正 18(1590)年、現在地に移したと伝わります。



貫井遺跡出土 縄文中期勝坂 3 式土器

### ⑦ はけうえ遺跡

小金井市で最も古い縄文「ムラ」。縄文時代早期の大規模な集落跡は少なく貴重な遺跡です。滄浪泉園の湧き水を生活立地条件として、居住エリアは台地縁辺の緩傾斜地に広がります。早期の住居跡はこれまでに 18 軒が確認されています。ほか、後期の住居跡が 3 軒あり、和鏡の形に似た柄鏡形住居が調査されています。滄浪泉園は大正前期に、銀行家・外交官の波多野承五郎が造成した別荘で回遊式庭園です。滄浪泉園は、波多野の友人犬養毅が命名しました。



はけうえ遺跡 看板



縄文時代早期調査区全景

### ⑧ 平代坂遺跡

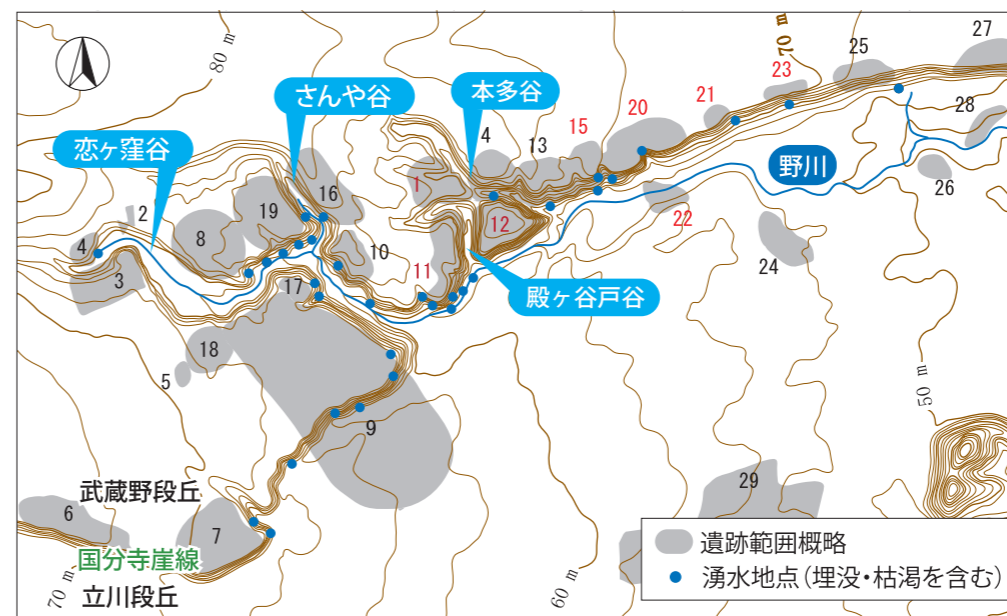
遺跡範囲は国分寺崖線の台地上～斜面～低地部に及びます。旧石器時代、縄文時代、古墳時代、中世、近世の痕跡が見つかる複合遺跡です。縄文時代中期の住居跡 2 軒が見つっていますが、調査件数が少なく集落の様相は詳らかではありません。

小金井市では、唯一の古墳時代終末期の横穴墓が 2 基発見され、横穴墓群の可能性が指摘されています。室町時代の地下式坑、井戸、墓跡(又は祭祀場)も発掘されています。

令和 5 年 10 月には、切り通した現在の平代坂の前身の中世道路跡が見つっています。



横穴墓 全景



野川上流域の主な旧石器・縄文時代遺跡の分布

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1. 本町遺跡            | 16. 恋ヶ窪東遺跡 |
| 2. 熊ノ郷遺跡           | 17. 恋ヶ窪南遺跡 |
| 3. No.37 遺跡(国分寺市)  | 18. 日影山遺跡  |
| 4. No.52 遺跡(国分寺市)  | 19. 羽根沢遺跡  |
| 5. 恋ヶ窪廃寺跡          | 20. 貫井遺跡   |
| 6. 多摩蘭坂遺跡          | 21. はけうえ遺跡 |
| 7. 武蔵台遺跡           | 22. 荒牧遺跡   |
| 8. 恋ヶ窪遺跡           | 23. 平代坂遺跡  |
| 9. 武蔵国分寺跡          | 24. 西之台遺跡  |
| 10. 花沢西遺跡          | 25. 貫井南遺跡  |
| 11. 花沢東遺跡          | 26. 前原遺跡   |
| 12. 殿ヶ谷戸遺跡         | 27. 中山谷遺跡  |
| 13. 殿ヶ谷戸北遺跡        | 28. 新橋遺跡   |
| 14. No.29 遺跡(国分寺市) | 29. 天神町遺跡  |
| 15. 東京経済大学構内遺跡     |            |



# 史跡めぐり 縄文遺跡群ウォーク

【行程】 国分寺駅（集合場所）⇒ ①本町（国分寺村石器時代）遺跡 ⇒ ②花沢東遺跡 ⇒ ③殿ヶ谷戸遺跡 ⇒ ④東京経済大学構内遺跡 ⇒ ⑤荒牧遺跡 ⇒ ⑥貫井遺跡 ⇒ ⑦はけうえ遺跡 ⇒ ⑧平代坂遺跡 ⇒ 武蔵小金井駅（解散場所）

